



さぎ  
鷺の宮卓話

みや  
火山灰の煉瓦

研究所長 太田敬雄

大震災以来、人の小ささを思い知らされ続けている。想像を絶する地震・津波・そしてその自然の力を見くびっていたために起こった原子力発電所の事故。それらすべてが、これまでの私たちの思いを超えて、今日の人間社会の在り方を考え直さなくてはならない時が来たことを示しているのではないだろうか。

考えてみれば、世界の最高峰、ヒマラヤでさえもとはといえば海の底だったことが証明されている。その地殻の変動を考えると、地球としては3.11の地震・津波などごく日常の小さな出来事なのだろう。その地球のかさぶたのような地表で怯え、うろたえている人間がいかに小さな存在なのかを再認識することが、今日の人間には何よりも大切なことなのかもしれない。今日まで、私たち人間は傲慢にも地球を支配し、すべてをコントロールできるような思いになっていたのだから。「お前たちがこの世界の支配者ではない」と地球が伝えてくれているようだ。

近年自然を保護する活動が大いに盛り上がってきた。もちろんそれは我々人類に課せられた大きな問題である。しかし、他方で私たち人類はその自然によって守られ、育まれてきたことを忘れていたような気がする。

話は変わるが、今年五月の連休に私は研究所と大学の提携のためにインドネシアまで旅をしてきた。日程に余裕があったため、私はジョグジャカルタに数日立ち寄った。近くには五年ほど前に噴火した火山があり、その周辺の地域には五日間灰が降り続いたという。降り積もる灰の重みと、その時に起こった土石流はジョグジャカルタ近郊に大きな被害をもたらせた。ジョグジャカルタとその被災地域を分ける川には五つの橋が架かっていたそうだが、その内四つは土石流が流し去り、いまだに復旧していない。ただ一本残った橋に通じる道端の灰の山や流されてきた岩の大きさから、五年前の被害の大きさを容易に想像することがで

きた。そこはまた世界文化遺産ボルブドール遺跡の近くでもあった。

インドネシア語の全くできない私でもマランでは大勢の通訳（日本語学科の学生達）に囲まれていて全く不便を感じないが、ジョグジャカルタでは日本語の出来る人を通訳・ガイドとしてお願いした。

日替わりで二人の方をお願いしたが、その内の一人がインドネシアと日本のダブルのお嬢さん。彼女のお宅がその被災した地域にあり、私はその家族のお宅までお邪魔して被災状況も身近に見聞きしてくることになった。日本人のお母さんは災害直後からこれまでの五年間、被災した人たちのそれまでの生活を支えてきたバティック（インドネシアのロウケツ染め）作りを支える支援活動を精力的に続けてきた。

その地で生まれ育ったお父さんは芸能活動や祭を通してのその地域に元気を与える活動を続けている。彼の話しは大変面白かったが、特に印象に残った事が一つある。それは火山灰の処理の話だった。そのお宅でも竹がみんな折れてしまうほど灰が降り続いたそうだが、彼はその灰を集め、煉瓦にして家の建物を一棟建て増したという。その逞しさ、災害をいつまでも嘆いているのではなく、それをプラスにする発想と行動力のある生き方。それこそが、人類の誕生から今日までの人間の歩みの根底に常にあったのではないだろうか。それがあったからこそ人類は繁栄することが出来た。

今日の日本ではその基本が忘れ去られているように思う。何か問題が生じた時、それにどう対応するか。それをいかにしてプラスにしていくか。私たちは、それを自分で考えるのではなく誰かに丸投げして、批判ばかりしてはいないだろうか？そんな暇があったら、「私たちに何が出来るか」を考えたい。

ケネディーが大統領就任時に言った言葉：Ask not, what the Nation can do for you. Ask what you can do for the Nation.（国があなた達のために何が出来るかを問うのではなく、あなた達一人一人が国のために何が出来るかを考えて欲しい。）

私たちは、人類のために、地球上のあらゆる生命のために何が出来るか真剣に考えたい。

2011年  
 特定非営利活動法人  
 国際比較文化研究所  
 総会報告

2010年度事業会計収支計算書

2010年 4月 1日から2011年 3月 31日まで

特定非営利活動法人 国際比較文化研究所

今年度の総会は2011年5月28日午後3時30分～4時30分にかけて「まなばるXD」において今年度の総会が開催された。

議題：

2010年度事業報告、会計報告、監査報告

2011年度予算報告、事業計画、人事、定款変更

等を審議し、新しい年度に向けて歩みを進める事となった。

人事では、副所長を三人体制として、急速に多様化している当研究所のニーズに対応していけるようにした。副所長はこれまでの太田琢雄（まなばる代表）に加えて、菅ヶ谷マコ（海外プロジェクト担当）および関千景（総務担当）のおふた方に依頼することになった。

菅ヶ谷さんにはすでにブラウイジャヤ大学との提携の折に、副所長として活躍していただいている。思えば、「多文化交流 in マラン」のスタート時より菅ヶ谷さんには大活躍をしていただいていた。今春のブラウイジャヤ大学との提携に結び付いた一番の功労者である。

関さんにもまた多文化交流をはじめ研究所のあらゆる活動で、所長の苦手とするところを埋めていただいていた。これからも大いに活躍していただきたいと願っている。8月の「留学生との多文化交流 in ぐんま」そして「釜山外大生との多文化交流も関さん抜きでは成立も困難だったかもしれない。

そして去年から副所長として活躍してくれている太田琢雄さん。彼の「まなばる」が研究所の目指すところを忠実に追い求めながら、それまでの対象であった大人の枠を超え、子供たちを対象とした広い意味での多文化共生のもろもろの活動は、これからの国際比較文化研究所のあるべき姿を如実に示し、新しい方向性を与えてくれている。これからの

まなばるの発展が楽しみである。

議題の定款変更では二つのまなばるの教室を従たる事務所として加えた。

最後に、決算は八百万円台の決算となっているが、この多くは「まなばる」および「多文化交流」の収入と支出である。実際にはその項目に入っていない収支もその二つの事業関連が多い。

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 財産運用収入 利息収入	29	29
2 会費・入会金収入 正会員会費収入	376,000	
団体会員会費収入	10,000	386,000
3 事業収入 学会活動支援事業収入	108,868	
言語・文化教育事業収入	4,413,000	
多文化交流事業収入	2,935,550	
特定事業収入	0	7,457,418
4 寄付等収入		
多文化交流事業寄付収入	71,000	
言語文化教育事業寄付収入	71,000	
一般寄付収入	222,020	364,020
5 雑収入	37,974	37,974
当期収入合計 (A)		8,245,441
II 支出の部		
1 学会活動支援事業事業費	83,678	
言語・文化教育事業事業費	3,270,498	
多文化交流事業事業費	2,851,373	
特定事業事業費	0	6,205,549
2 管理費		
賃金	13,000	
事務費	144,951	
通信費	256,270	
電気料	90,127	
食糧費	6,874	
旅費	92,000	
負担金	11,000	
手数料	22,080	636,302
4 繰出金	71,000	71,000
5 まなばるXD立上経費	500,000	500,000
当期支出合計 (B)		7,412,851
当期収支差額 (A) - (B)		832,590
前期繰越収支差額 (C)		-411,250
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)		421,340



Universitas Brawijaya

## インドネシア国立 ブラウィジャヤ大学との提携

5月5日は国際比較文化研究所にとって新しい幕開けの日となった。この日、ブラウィジャヤ大学の学長と協定書に署名をして大学と当研究所は提携関係に入った。実はインドネシア入りし、マランに着いてからもいつ協定書を交わすことができるのか全く分からない日が続いた。ヨギ・スギト (Dr. Ir. Yogi Sugito) 学長が実に多忙でマランに居ることも少なく、飛び回っておられたからだ。

最終的に5日の午後と決まった時、私は学長室で署名し握手して終りかと想像していたが、通された部屋は大きく立派な会議室だった。そこには学長を始め三人の副学長、学科長、副学科長、国際交流部長、日本語科長、日本語の先生などが集まり、厳かに儀式が執り行われた。

このような時、通常であれば記念に大学の楯などのようなシンボルとなるものを交換するものだが、こちらにはそのようなものは何もない。私は高崎だるまの正面にブラウィジャヤ大学の名を書き入れて貰い、背中には研究所の名前を入れ、片眼を入れて持参。協定成立後にスギト学長にもう一つの目を入れて貰った。このアイディアは大ヒット！ダルマで雰囲気も和み、両者の学術と文化の交流への思いはさらに深まった。



協定書交換を終えスギト学長と

## 留学生との多文化交流inぐんま

、8月4日から8日までの5日間、安中の学習の森を舞台に再び留学生との多文化交流を実施した。今回のイベントの大きな特徴は、高崎経済大学地域政策学科の小暮律子先生のゼミの学生を中心とした大学生15名のグループが企画・運営を担当したことにある。彼らにとってはこの多文化交流は大学の「施設等体験実習」としての単位が認定されるのだが、経験のない多文化交流を企画するという事で学生たちは大変な思いをしながら良いプログラムを作り上げてくれた。参加者は留学生が18名、日本人学生が実習生も含めて20名。 企画・運営そして参加した実習生のコメントは7ページへ ↘



高崎市役所でのお別れ会



お別れ会終了後も延々と続く記念写真会

このプログラムの成功はまず第一に学生たちの並々ならぬ努力と、木暮律子先生のきめ細かい指導にあるが、二泊三日のホームステイを引き受けてくださった前橋の五十嵐晋介さん、中野博史さん、高崎の石井智美さん、河藤佳彦さん、高橋寛さん、福島展子さん、上野村の松本宇隆さん、渋川の岸綾夏さん、安中の丸山輝彦さん、伊藤成さん、太田敬雄の各家族の温かい受け入れがあってこそ成り立った。ありがとうございました。また食事作りボランティアは木暮こづえさん、前田申栄さん、木暮正子さん、森泉婦久寿さん、狩野真由美さん、岩丸愛さん、峰岸聡子さん、太田玲子さん。ごちそうさまでした！

## まなぱるの 夏フェス/ 世界と遊ぼう 2011

2011年8月5日



今年度のまなぱるは『より多くの子どもたちに、経験と成長の機会を』という起業以来のコンセプトに基づき、イベントの規模拡大を目標の一つに掲げています。そんな中、2011年度初イベントとなった夏フェスは、まなぱる史上初の『一般参加キッズも募るイベント』でした。そして有難いことにさほど宣伝することも無しに、一声かけてみたら予定倍数の200人もの参加者が集まってくれました♪のっけから想定外づくしだった夏フェス2011…その様子をご報告致します☆ 文：太田琢雄

### ①世界を食べる！

まなぱるの夏フェスは、異国料理の食べ歩きからスタートしました☆料理は7カ国、食べ歩き場所は4か所、参加者は200名越え。

外部から料理を持ってきてくれた方々（フィリピン、ペルー、韓国）にも助けられ、参加者には11種類もの食べ物を楽しんでもらうことができました♪

#### ↓↓夏フェス2011料理一覧↓↓

☆ベトナム料理☆「生春巻き」午前の準備では学生たちが数十名（多国籍）が一斉に並んでライスペーパーを巻きました♪☆カンボジア料理「ココナッツカレー」タイ米は当初の予定では炊飯器で炊く予定でした（日本の常識）。が、カンボジア学生たちのたつての願いにより、鍋炊きに変更されました（カンボジアの常識??）。裏舞台で起こったこのような想定外な異文化コミュニケーションが学生たちにとっては一番のご馳走だったかも知れませんね！☆ペルー料理☆「カウサ・レジェーナ」（ジャガイモサラダ）☆フィリピン料理☆「フルーツカクテル」☆中国料理☆「海鮮水餃子」「黒ゴマ入り団子」「ラオガンマ」（辛いつけだれ）そして大人気「ひまわりの種!!」☆韓国料理☆「ブルコギ」「チヂミ」「韓国のり」☆関西料理☆「そば飯」



### ②世界と遊ぶ！

これは去年の12月に開催された「世界の遊び」の第二弾（パワーアップ版）!!お兄さんお姉さんたちから外国の遊びを伝授してもらった時間です。本当にいろんな遊びが飛び出しました!お国の遊びのみでなく、野外ではドッジボール大会やサッカーゲームなども開催♪この枠に関しては、留学生の子たちが本当にたくさんの案を出し、子どもたちを楽しませてくれました☆屋内屋外と場所をまわし思いっきり遊びました~♪

### ③世界と話す！

ついに夏フェスもクライマックス!7ヶ国の言葉で「こんにちは!」を練習した後は…「ことばラリー」のスタートです♪各国のお兄さんお姉さんたちの所へいき、その国の言葉で「こんにちは!」が上手に言えれば「よくできました♪」のサインが貰えるというルール。皆で異国の言葉でのコミュニケーションを満喫して、夏フェスは幕を閉じました。

このイベントのために…多文化交流企画運営を担った高崎経済大学地域政策学部実習生たち・またその中から選抜されたまなぱる学生スタッフたち(+α)が夏フェス参加の留学生たちと連絡を重ね、内容を決めレシピを作りゲームを相談し、買い出しをしたり(誰かに頼んだり)、ガストで明け方までミーティングしたり、国旗や張り紙(POP)を作ったり作らせたり、涙ぐましい努力を重ねてくれました。本当に皆さんブラボーでした。



大成功  
と  
smiley

# まなばるの サマー キャンプ 2011

文：日向野順子

2年目にして恒例となった『まなばるサマーキャンプ』が8月27～28日、学習の森（安中市）で行われ、高学年クラスから18名が参加してくれました。今年のサマーキャンプのテーマは『TEAMWORK(チームワーク)』です！これはキャンプに限らず、まなばるが子供たちに体験して欲しいことの上位に入っているテーマです。それぞれの個性を生かしながら『皆で一つのことを成し遂げ得る達成感』を味わって欲しい。そして何より、その過程を楽しんで欲しいのです。今回は子供たちを3つのグループに分け、活動してもらいました。

現地に集合し間もなく、英語のゲームを行いました。高学年クラスではリスニング、スピーキングと英文法を学習していますので、これらを使ったゲームです。ウォーミングアップで、大文字・小文字の入り混じったアルファベットを順番に並べるゲームをし、その後、封筒の中の分解されたセンテンスを、聞き取った通りに並べ替えるゲームをしました。どれも正確さと速さを競うゲームですが、まだメンバー同士が馴染めずにいたのか、チームワークにばらつきがみられました。それでも子供たちは楽しそうに風船を運び、ゲームに参加していました。

さて、今回のメインイベントとも言うべき『夕食作り』ですが・・・。昨年「先生たちが作るBBQ」とは一転！今年はグループ対抗カレー合戦？！主になる具材は①鶏肉②ひき肉③シーチキンで、英語ゲームの上位者から具材を選べるシステム。その他、スパイスや妙な？材料も取りそろえ、何を使っても良いので美味しいカレーを協力して作るという指令！あるチームは、タイ風にココナツミルクを入れ、あるチームはイチゴジャムを入れ・・・と、それぞれが本当に個性的なカレーを作ってくれました。全体を見ていて思いましたが、子供たちは本当にお料理することが好きで、とても手際が良いです。ゲームの時より数倍良いチームワークで、予定していた時間を大幅に短縮してカレーができあがりました。食べる事に対しては、やはり人間の本能が働くのでしょうか？！あの短い時間の中で「適材適所」な役割分担ができていました。お見事！

食後は恒例・花火の庭（国際比較文化研究所）での花火大会☆そしてお楽しみのシャワー&雑魚寝。短い滞在の一夜キャンプですが、子供たちにとって夏の良い思い出になっていれば幸いです。そして、来年もまた新たなメンバーを迎え、さらに成長した子供たちが、いったいどんな活躍をしてくれるのか？今からとても楽しみです。

最後になりますが、キャンプに際し保護者の皆様には色々な面でご協力を頂きありがとうございました。また、ボランティアで参加してくれた、YUK姉さん・MAT兄さん・UB兄さん、ありがとう！次はハロウィンイベントでまた盛り上がりましょう☆これから12月までのまなばるは「イベントめじろPush!」です♪



新たに斬新なフライヤー（秋号）も完成し、2011年度後半もはりきって邁進する予定のまなばるです！算数・数学クラスもお陰様で正式にスタートし、新たな職員もこの10月から増えました☆また、2012年度に向けての準備も進めています。英会話・英語・算数・数学などの学習教室のみならず、より多様な角度から子どもたち・若者たちの成長を見守る活動をしていく所存です☆

「多文化交流 in 釜山 2011 夏」に参加して…

日本大学商学部 1年 田中俊太

私は今回初めて多文化交流 in 釜山に参加しました。日本大学商学部の英語の授業で太田先生が担当する授業を受講しており、その時に太田先生がしている活動と多文化交流について知りました。もともと父の仕事の関係で小さいころはイギリスに住んでいたのですが、海外には興味がありました。そこで太田先生から多文化交流の話聞いたとき、興味が湧きました。私は中学から部活を続けていて、部活一筋だったので部活以外では社交的な性格ではなく、どちらかといえば静かな性格なので、初めは一人で参加することと、他の国の人と仲良くなれるか不安でしたが、せっかくの機会だったので参加することにしました。

韓国は初めてだったので、釜山についていろいろ調べていったのですが、観光地や食べ物についてくらいしか調べられなかったので実際に行ってみて、日本との違いを実感しました。まず、日本より車線の数が多く、スピードも速くとても驚きました。またタクシーが多く、タクシーを利用する人が多いと感じました。他にも電車内でも日本とは全く違い、携帯電話を使っても大丈夫と聞いて文化の違いを感じました。

韓国の中で印象に残っている事の 하나가チムジルバンです。様々なサウナがあり、長時間居られるので疲れを取りたい時や男女一緒に入れるのでデートにも向いているなど思いました(笑)。日本ではこのような施設に行ったことが無かったので、とても印象的でした。

多文化交流に参加したメンバーや‘のびのび’の人達とも仲良くできるか不安でしたが、皆とてもいい人でとても仲良くなりました。韓国と日本についての違いを話したり、韓国の文化などを教えてくれたり、日本にいては味わうことが出来ないとても有意義な時間を過ごす事が出来ました。今後も皆と連絡を取っていくつもりです。

今回参加してみて、ほんとに良かったです。自分の人生の中でとてもいい経験になりました。またこの一週間は一生の思い出です。太田先生、関さんを初め、多文化交流に携わったすべての人に感謝したいです。ありがとうございました。

初引率として

研究所副所長 関 千景

その大役を仰せ付きりビビる私に、太田所長はおっしゃった。「僕が君の歳くらいには、アメリカに毎年のように引率に行ってたよ」と。

そうだ、私と太田所長を太く結びつけたきっかけは、短大時代のテネシー州立大学への短期留学であった。それから幾年月、今回「多文化交流 in 釜山」にてまさかの「引率」デビューとなった。

毎回ながら、日韓双方の先生方は勿論、学生達に大いに助けられて(釜山外大生達の細やかな心遣いは、本当に素晴らしかった)大きな事故もなく日程を終えることが出来た。深く感謝申し上げたい。

去年までは参加者として「多文化」に名を連ねていた私が、学生達より勝るのは酒量くらいである。そんな引率ビギナーが素人なりに心に留めていたことは「添乗員」にならないようにしたことだ。このプログラムは「旅」ではなく「文化交流」。その中で、異文化に接する際の最低限のアドバイスと大きな発見のお手伝いをする役、とでもいおうか。そのため、多少強引な引っ張り方をしたかもしれない。

引率をしてみて、初めて見えたこともある。それがこれからの交流に繋がり、良い方向に向かうように、微力ながら関わりたいと思う。そして、この草の根の交流から「タブンカ」が一般名詞として広がっていく様を見守っていききたい。

<関さん、ご苦労さまでした>



釜山外大を訪問した日は丁度卒業式の日。卒業する仲間を多文化参加者総出で祝福。そして記念撮影

## 加瀬谷恵の

ショート・

超ショート



### 「ゼンプ、ツラクナツチャッタんだって」

ああ、私は無力だ。

またデミーが泣いている。明るく振る舞っているかと思うと、急に怒り出したり、気が強いなあと思うと、突然泣き出したりする子で、なんだか気にかかる。こんな風に肩を震わせて涙を流すってこと、十五歳の私も時々あったけど、自分なんて消えちゃえばいいのについて思うくらいつらかったなあ。でも、つらそうに震えるデミーの体は今にも倒れそうで、十五歳の私なんかと比べものにならないくらいたくさんのこと抱えているんだなって思った。私は、あの日のようにデミーを抱きしめてあげたいと思った。十五歳の私がもし異国で暮らしたら、こんな風に静かに泣くだけではきつと済まない。父親の仕事の都合で自分が生きたい場所を選べないなんて嫌だ。十五歳の私は、親の愛情を受け、友達と慣れ親しんだ言葉で悩みを分かち合ったりしたいと思う。言葉も通じない環境で生活するなんて、寂しくて仕方なくなつて、私だったら学校になんて来ないだろう。

よく言えたものだと思う。先輩教師は何を思ってたんなことを言ったのだろう。デミーに向かって「だったらそこでずっと泣いてなさい。」なんて。でもすくに思った。そういう態度取っちゃうものだよねって。日本人の教師は、生徒がおとなしく席に座って授業を受けるのが普通だと思ってるんだと思う。そんなこと無理に決まってるのに。こんなに寂しそうなデミーを目の前にして、私は何にも出来ない。

## 留学生との多文化交流 in ぐんま

～企画・運営・参加した学生たちの声～

<A4 にびっしりのレポートより一部抜粋>



企画会議始まる・・・

今回の体験実習は私にとって、なかなか貴重な機会だったと感じ、異文化コミュニケーションと言うゼミで研究しているテーマにもふさわしい実習だと思います。チームワークで、一人一人の担当を決め、個人の考え能力向上とともに、共に目標へ向かうと同時にそれに関係するメンバーとの連携がとても大切であることを学びました。また、メンバーそれぞれが主体的に関わる意識を持つことが不可欠だと感じ、「メンバーの誰かが何とかする」という意識ではなく、「自分が何とかする」という意識こそがよいチームになる鍵だということがわかりました。(劉リョウ)

この実習で出来た日本人学生・留学生の友人はかけがえのないものである。全く別の学校・地域に住む私たちが集まり生活を共にする。このような経験は滅多に出来るものではない。だからこそ、この繋がりを大切にしていきたい。(奥田健太郎)

今回の実習は自分が今まで挑戦したことのない分野を見つめることができた。異文化との交流、企画、運営の大変さ、そしてボランティアという無償の活動の偉大さを体験実習を通して知ることができ、自身の成長におおいに貢献してくれた。すべての企画、イベントには、多くの人達の協力があってこそ成り立つものであり、それに貢献し、達成することは自分にとって最高の喜びになるのである。(戸田真太郎)

(私が実習で学んだことの一つは) 他文化交流が伝えたかった、人と人とのつながりが創れ、そしてそれによる成長を感じられたことです。特に留学生との交流というのは狭かった視野を広げてくれました。世界を知ること、日本のことも再確認できたということもあります。 橋本拓実

今回の実習の中で一番嬉しかったのは、お別れ会の時に参加者のみんなが楽しかったと言ってくれたことと、太田先生から認定書をいただいた時でした。この認定書の重みは一人ひとり違うとおっしゃっていましたが、私にとってはとても価値のあるもので、自分たちがしてきたことが認めてもらえた気がしてとても嬉しかったです。(柴田幸平)



食から心の交流は始まる

太田先生とのメールのやり取りで、「あまり大変さを感じていない時は何か見落としていると思え」という文がとても印象的でした。(清田裕太郎)

他の実習生のコメントも貴重でした。袁小晴さん、大塚沙紀さん、大堀翔馬君、リーダーの澤口司君、鈴木健人君、瀬在隆道君、長野平君、堀口良平君、山下龍君。皆さんのコメントも載せたかった!

## ☆ 編集室よりお知らせとお詫び ☆

◎七月には**ニュースレター**の第2号を発行の予定で準備を始めましたが、伸びに伸びてついに10月になってしまいました。お詫び申し上げます。

◎NPO法が変わり、これからの時代にNPOとしての活動を続けていくためには**認定NPO法人**となる必要があります。そのためには3000円の寄付を100名の方から受けられる内容を持ち、その体制が出来ている事が求められます。ニュースレターの定期的な発行も重要だと考えています。現在、認定を取るためには何をしなくてはならないのか検討中です。定款の変更も伴うかも知れませんが、その内改めてご連絡させていただきます。

◎今年五月に発行しましたニュースレターはVol.11. No.1ではなくVol.12. No.1.でした。訂正をお願いします。

◎2012年春の「**多文化交流 in マラン**」は来年の3月上旬に1週間程度の予定で実施します。こぞってご参加ください！近い内にチラシを作成する事になりますが、参加ご希望の方は前もってご連絡ください。その方には優先してチラシ・申込書をおくらさせていただきます。経費は去年同様

◎先のニュースレターに記載漏れがありました。**インドネシア招聘プログラム**に柴山享氏よりご寄付を頂いておりました。また**新入会員**に堀口榮一郎氏のお名前が漏れていました。大変ご迷惑をおかけして済みませんでした。お詫び申し上げます。

### ☆会費納入とご寄付のお願い☆

会員の皆様に支えられて活動を続けられていることに心から感謝しております。**年会費は個人が2000円**です。会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封しますが、ご寄付下さる方のため、また新入会員のための振込用紙です。決してご寄付を強要するものではありません。

◇**インドネシア人学生招聘事業**震災のため実施を躊躇しておりましたが、延期はしても必ず日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としてはいても、私費での来日は難しいインドネシアの若者達のために活動を続けます。そろそろ次期の招聘を検討して参りたいと思います。皆様のご寄付なしには実施できないプログラムですので、ご協力のほど宜しくお願いします。

### 会費・寄付(2011. 4. 21. ~2011. 10. 10 <敬称略・順不同>

<入会+会費>堀口榮一郎、太田一郎(高崎)、野田敏郎、田中京三、大塚沙紀、山下奈々、田中俊太、飯島麻理、川田真佑美、吉田咲紀、岩瀬裕理子、只野勇司、大場賢太。

<会費>皆様の変わりないサポートのおかげを持ちまして活動を徐々に広げていく事が出来ております。有難うございます。なおカッコ内の年度記載の無い方は2011年度分です。狩野真由美、金井美由紀、幸田一彦、関千景、太田一郎、朴敬二、森泉寿義雄、藤田隆(12)、千木良和子(11・12)、植原映子、関口澄、佐野啓子、山崎利夫、佐俣英司、鈴木武仁、八木原悟、前田武男、黒田絢(13)、堀越美津子、岩井均、前沢優子、上田伸子、板垣剛、間庭有美子(10・11)、野田敏郎、高橋美一、川口知幸、木村隆、木村真理子、吉田咲紀、田中京三、佐藤秀男、近藤佳代、太田玲子、梶原悦子、小林久子、岡田一恵、福田英作(10・11)、伊藤優子、日本比較文化学会、高山昇、斎藤正典、斎藤和子、櫻井なおみ、岸綾夏、菅ヶ谷由美子、木暮道子、大塚沙紀、山下奈々、田中俊太、飯島麻理、川田真佑美、佐藤貴雄、岩本謙、岩瀬裕理子、只野勇司、石井七郎(10・11)、佐俣由香、正田智美、大場賢太、佐藤秀雄。

<「インドネシア招聘」「多文化交流 in 関東」>柴山享、菅ヶ谷由美子、木暮道子。御協力有難うございます。

<マナパル・復興支援>狩野真由美、金井美由紀、内田浩良、前沢優子、荒井美里、松本英子、斎藤正典、斎藤和子、木暮道子。

<一般寄付>幸田一彦、山縣英明、藤田隆、植原映子、佐野啓子、山崎利夫、黒田絢、板垣剛、岩本謙、間庭有美子、川口知幸、村井田和夫、太田玲子、堀越美津子、五十嵐由紀子、福田英作、加納武、日本基督教団東京信愛教会。有難うございます。必要とされる所も多くなってきました。大切に使用させていただきます。

**編集後記:**七月以来、このニュースレターの発行がずっと心の奥にひっかかり、刺のように痛みを感じていました。そんな思いをしないで済むよう、次号こそIIMSを支えて下さっている皆さんに早くと決意を新たに。

**Newsletter 発行: 特定非営利活動法人国際比較文化研究所**

事務所: 〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3413-3

電話: 027-382-5998 FAX: 027-382-6393

e-mail: [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

HP: <http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ: <http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号: 00510-0-61974 名称: 国際比較文化研究所